

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けいたします。

次回発行日は平成27年12月10日（木）です。

---

## ◆ 目次

### 1 現場レポート

- ・人命が第一 万に備えて！～大分県内各地で防災訓練が実施されました～
- ・省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催！～九州運輸局環境保全関係表彰式を挙行～
- ・宮崎交通・JR九州の宮崎地区交通系ICカード導入～九州における全国相互利用交通系ICカードの空白地域解消～
- ・平成27年度Gマーク九州運輸局長表彰式を開催しました～トラック業界の安全の増進、信頼の増大に向けて～
- ・日々の現場に新たなやる気を！～若手造船マンのモチベーションアップ研修を開催～

### 2 お知らせ

- ・「外資系企業とのビジネス提携交流会（観光分野）～インバウンド消費を九州へ！～」が開催されます

### 3 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

---

## 1 現場レポート

### ◆人命が第一 万に備えて！

～大分県内各地で防災訓練が実施されました～

11月5日の津波防災の日を皮切りに、大分県内で、人命を第一とした多くの訓練が実施されました。当支局も、11月5日の朝の庁舎への徒歩による参集訓練、夕方の退庁時間を利用しての、指定避難所（城東中学校）へ来客されている方々をスムーズに誘導することを目的とした避難誘導訓練を実施したほか、以下の訓練に参加（参観）し、我々が行政職員として出来ることは何か、万一の時はいかに行動すべきかを訓練を通して再確認し、支局職員の危機管理意識の更なる向上を図りましたので、その概要を紹介します。

#### ○佐伯市でのJR大分支社による地震・津波避難誘導訓練（11月5日）

地元の自治会や防災士、小学生等、151名もの方が参加し実際に電車を使って、指定避難地の高台まで乗客の皆様を避難誘導する訓練が実施されました。南海トラフ地震による佐伯市への津波到達の予測時刻は43分とされております。今回の訓練では、乗務員と乗客の皆様との適切な連携により、僅か19分で全員が安全な場所へ避難することが出来ました。本局鉄道部安全指導課長の「落ち着いた行動こそがみなさんが安全に避難するために必要であり、また、今回訓練に参加出来なかつ

た、家族、ご近所の方に本日の状況を広くお知らせいただき万が一に備えていただくようお願いしたい。」との講評に参加された皆様も共感されていました。

また、訓練終了後のことですが、佐伯駅へ帰る途中で、地元の方からお声を掛けていただき、「実際、電車には運転手さんを含めて1～2名程度しか乗車していないだろうから、次回は避難用の階段を設置する等の手伝いをさせて欲しい。」とのお申し出をいただき、地元の方々の危機管理意識の高さを改めて感じました。この方々は、後日、実際に体育館に宿泊しての避難所の訓練も計画されているとのことでした。我々も今後ますます、実践に近い訓練実施の必要性を考えさせられました。

#### ○伊方原発の過酷事故を想定した防災訓練（大分へのフェリーによる住民避難）（11月9日）

11月8日から9日にかけて、国や自治体、電力会社など105の機関と住民、計約1万5千人が参加して原発の過酷事故などの原子力災害を想定した「原子力防災総合訓練」が実施されました。

訓練は、8日午前8時30分に震度6弱の地震が発生し、伊方町の四国電力伊方発電所（伊方原発）3号機の原子炉が停止したとの想定で、1日目の災害対策本部の設置、住民広報、情報伝達などの図上訓練や伊方町と豊後水道を挟んで対岸にある大分市佐賀関での放射性物質を含む雲上のプルーム飛来に備えた屋内退避訓練が行われました。

当支局は、訓練2日目の9日に行われた伊方町住民の方がフェリーなどを使って大分市へ避難し、大分県が受け入れを行う訓練を参観しました。

伊方原発は、東西約40kmにも及ぶ佐田岬半島の付け根部分に位置し、万が一、放射能漏れ事故が発生した場合には、発電所の西側に暮らす住民約5千人が孤立する恐れがあると言われています。

午前9時、伊方町住民約70人がマイクロバスで三崎港へ到着し、放射線物質に汚染されていないかを確認するスクリーニング検査を受けた後、自衛艦「げんかい」と国道九四フェリー株式会社のフェリー「ニュー豊予2」に分乗し、約30km離れた大分市佐賀関港へ向かいました。

大分市佐賀関港からは、県警の白バイに先導されたバスに分乗して、受け入れ先であるホルトホール大分へ向かい、到着後は血圧測定や問診等のメディカルチェックを受けた後、食事の配布を受けていました。伊方町を出発して約4時間、皆さん大変お疲れの様子でした。

国道九四フェリーは、佐賀関港と三崎港の間約30kmを70分で結び、1日16往復しています。この航路は、国道197号線の海上区間を走っており、四国と九州を結ぶ最短のルートです。

今回は通常の営業航海中の訓練でしたが、多くのマスコミが注目する中、特に、大きな混乱もなく乗下船はスムーズに行われていました。

現在、万が一、放射能漏れ事故が発生し、住民の方々が孤立した場合、大分市への避難手段として、この航路の活用が検討されています。しかし、実際に地震が発生した場合、「5千人が一度に港に押し寄せた場合、安全に乗船できるのか」、「地震で岸壁が使用できなくなった場合はどうするのか」、「津波が発生して海上に大量の浮遊物がある場合はどうするのか」、「放射能漏れ事故が発生し、避難が必要とされている中で船員さんの安全はどう守られるのか」等を考えると、70分間の乗船時間がとても短く感じられました。

福島第二原発の事故により、国民の注目が集まる原発問題、運輸業界が協力できる点と問題点等を今回の訓練で改めて考えさせられました。

#### ○大分県総合防災訓練（図上訓練）（11月10日）

発災から3日目を想定した大分県の図上訓練にリエゾンとして参加しました。訓練

の中では、県の災害対策本部からの各種オーダーに運輸局として出来ることと出来ないことを判断しつつ、特に支援物資物流については、本局交通政策部環境・物流課からの連絡・指示を仰ぎながら、訓練に臨みました。

県庁での訓練参加者はそれぞれ、今まで気づかなかった課題等をこの訓練で見出したのではなかろうかと思いました。

例えば、訓練の中で避難所からの配送要請のあった「非常食（アルファ米）」10万食を運ぶのに必要なトラックの台数は何台必要かなどは、あらかじめ想定しておくことでスムーズな配車対応が出来るのです。

当日一緒に参加された大分県トラック協会の方が支援物資を素早く容積に換算して、重量も考慮の上、必要台数を算出されたのを目の当たりにして、やはり、餅は餅屋で、専門家の力の凄さを今更ながら改めて体験することが出来ました。

#### ☆各種訓練を振り返って

これらの訓練に参加して考えさせられたのは、兎に角人命を第一として事前にその時に備える必要性。起こるであろう危険性を知っていれば救える命があること。訓練で出来ないことは、実際の災害時でも出来ない。つまり訓練以上のことは出来ないということです。

想定では、30年以内に70%の確率、50年以内に90%の確率で起こると予測されている南海トラフ地震ですが、その発生は、50年後であることもあり得ますが、実は、明日かも知れないのです。心に刻み込まねばなりません。

各訓練の様子は次のURLからご覧になれます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_320\\_6.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_320_6.pdf)

(大分運輸支局)

---

#### ◆「省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催！

～九州運輸局環境保全関係表彰式を挙行～

11月17日に福岡市において、地球温暖化問題への理解を深め、人と地球にやさしい運輸を目指すために情報を共有し、今後の省エネ対策の参考としていただくことを目的とする、「省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催しました。

はじめに、「地球温暖化時代の運輸-環境エネルギーの視点から-」と題して、九州工業大学の西名誉教授に基調講演を行っていただきました。

続いて、九州運輸局が所管する陸上・海上交通、観光、倉庫、港湾運送、造船等の分野における環境負荷軽減やエコ通勤への転換など環境保全の活動に顕著な功績があり、他の模範となるに相応しい事業者等に対する「九州運輸局環境保全関係表彰」の表彰式を執り行いました。

今年度は、それぞれの事業活動分野で環境保全に貢献された次の団体及び事業者の皆さまが受賞されました。

#### ○北九州市ゼロエミッション交通システム導入グループ（福岡県北九州市）

（HKK&TEK合同会社、北九州TEK&FP合同会社、東レエンジニアリング株式会社、ひびき灘開発株式会社、フジプレミアム株式会社、東レ株式会社グループ、北九州市）

・太陽光発電による電力を蓄電、電気バスの運行に利用し、二酸化炭素等の廃棄物を一切排出しないゼロエミッション交通システムを導入することにより、環境負荷の少ない公共交通体系を実現し、環境保全に貢献した。

○薩摩川内市（鹿児島県薩摩川内市）

・次世代エネルギーを活用したまちづくりを積極的に進めており、環境負荷の少ない電気バスの導入や充電環境のインフラ整備について急速充電器の設置を充実させるなど低公害車の普及拡大に努め、環境保全に貢献した。

○阪九フェリー株式会社（福岡県北九州市）

・環境・省エネ性能に優れたデュアルハイブリット推進システムを国内フェリーで初めて導入することにより、二酸化炭素等の排出削減に努め、環境保全に貢献した。

○株式会社明和製作所（福岡県糸島市）

・公共交通の利用促進などエコ通勤奨励を目的とした、従業員に対する講習会の実施、エコ通勤優良従業員表彰制度などエコ通勤の環境整備を積極的に行い環境保全に貢献した。

休憩をはさんで、当日環境保全部門で表彰された北九州市 港湾空港局 立地促進課 野間課長に「ゼロエミッション交通システムについて」、薩摩川内市 企画政策部 久保新エネルギー対策監に「次世代エネルギーを活用したまちづくりについて」と題して環境・省エネ対策の取り組み事例を紹介していただきました。

当日は、約90名の参加があり、講演後参加者に実施したアンケートでは、“可能なところから始めてたい”など主催者には、うれしい声も寄せられています。

九州運輸局では、今後もフォーラムの開催等を通じて、地球環境保全に資する運輸部門における省エネ対策を推進していきたいと考えています。

フォーラムの様子は次のURLからご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_320\\_2.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_320_2.pdf)

（交通政策部 環境・物流課）

---

#### ◆宮崎交通・JR九州の宮崎地区交通系ICカード導入

～九州における全国相互利用交通系ICカードの空白地域解消～

宮崎交通の「nimoca」とJR九州の「SUGOCA」の宮崎エリアでのサービスが、平成27年11月14日から始まりました。これにあわせて、同日午前9時からJR宮崎駅にて、両社による「全国相互利用交通系ICカード導入開始記念式典」が開催されました。

青柳JR九州社長と菊池宮崎交通社長からの主催者挨拶の後、久保田九州運輸局次長、河野宮崎県知事、戸敷宮崎市長、米良みやざき商工会議所会頭の祝辞と続き、出席者全員による鏡開きが行われました。その後、宮崎駅改札口に移動し、導入されたICカードを使って自動改札機の渡り初めを行いました。

式典当日は、nimocaのキャラクター「フェレット」と、SUGOCAのキャラクター「カエルくん」も駆けつけ一緒に祝いし、式典を盛り上げてくれました。

この度の宮崎地区の交通系ICカードの導入により、九州で唯一であった相互利用交通系ICカードの空白県がなくなり、JRからバス、バスからJRへの乗換えが1枚のカードでスムーズに出来るようになり、県外からの観光客等利用者の利便性が向上されました。

今回の導入で、宮崎交通の路線バスは全路線がICカード対応となりましたが、J

R九州は宮崎駅を中心とした12駅のみでICカード対応となっており、今後の利用駅の拡大が期待されるようです。

式典の様子は次のURLからご覧いただけます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_320\\_3.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_320_3.pdf)

(交通政策部 消費者行政・情報課)

---

◆平成27年度Gマーク九州運輸局長表彰式を開催しました

～トラック業界の安全の増進、信頼の増大に向けて～

国土交通省では、貨物自動車運送事業者で安全性優良事業所（Gマーク制度）の認定を連続して10年以上取得し、安全対策等について顕著な功績が認められる事業所に対する表彰制度を平成26年度に創設しました。

制度創設後、初めてとなる平成27年度九州運輸局長表彰式が、11月4日（福岡）、25日（佐賀）にそれぞれ執り行われ、九州運輸局長から輸送の安全に積極的に取り組んでいるトラック事業所に対して、表彰状の授与が行われました。

また、運輸支局長表彰式についても、10月29日（熊本）、11月4日（福岡）にそれぞれ執り行われ、各運輸支局長から輸送の安全に積極的に取り組んでいるトラック事業所に対して、表彰状の授与が行われました。

（佐賀、鹿児島、大分、長崎の各運輸支局長表彰は、メールマガジン第318号（10月29日）でお知らせしたとおりです。）

九州運輸局は、これからも、Gマークの普及を推進し、トラック業界の安全の増進、信頼の増大を図っていきます。

九州運輸局長表彰を受賞された事業所は、次のとおりです。（各五十音順）

【福岡】▽有限会社空港運輸本社営業所▽株式会社ニッコン九州福岡営業所▽力丸運輸株式会社本社営業所

【佐賀】▽株式会社ハラダ物流本社営業所▽株式会社ミヤハラ物流本社営業所

運輸支局長表彰を受賞された事業所は、次のとおりです。（各五十音順）

【熊本】▽一宮運輸株式会社物流センター熊本▽株式会社共同本社営業所▽久留米運送株式会社熊本支店▽津埜運送株式会社本社営業所▽株式会社ニッコン九州熊本営業所▽日本通運株式会社熊本航空支店天草航空営業所▽日本通運株式会社熊本航空支店貨物センター▽日本通運株式会社熊本支店天草営業所▽日本通運株式会社八代支店八代事業所▽日本図書輸送株式会社熊本営業所▽日本郵便輸送株式会社熊本営業所▽株式会社ニヤクコーポレーション九州支店八代事業所▽株式会社博運社八代営業所▽フクワ物流株式会社本社営業所

【福岡】▽甘木合同運輸株式会社本社営業所▽センコー株式会社小倉営業所▽東筑物流株式会社本社営業所▽トヨタ輸送株式会社宮田営業所▽株式会社ナカノ九州運輸本社営業所▽日本通運株式会社福岡中央支店▽日本通運株式会社福岡南営業センター▽日本図書輸送株式会社福岡営業所▽ハウス物流サービス株式会社九州配車センター福岡事務所▽株式会社鋼ライン本社営業所▽株式会社福岡豊興本社営業所▽吉川貨物自動車運送有限公司本社営業所

Gマーク制度の概要はこちらのURLからどうぞ。

[http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha\\_tk4\\_000013.html](http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000013.html)

各地での表彰式の模様は、次のURLからご覧になれます。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_320\\_5.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_320_5.pdf)

(自動車交通部貨物課、熊本運輸支局、福岡運輸支局、佐賀運輸支局)

---

◆日々の現場に新たなやる気を！

～若手造船マンのモチベーションアップ研修を開催～

「初心忘るべからず」。長崎運輸支局では、去る平成27年10月29日、「長崎地域造船造機技術研修センター事業」の一環として、県内造船所に勤務されている若手社員の方々を対象とした座学・見学体験を内容とする合同研修を実施しました。この研修は、造船業と日本経済とのかかわりや、造船にかかる制度の解説、最新の試験・研究設備の見学体験を通して、現場のマンネリ化を防止し、日々の業務に臨むモチベーションの向上を目的としたもので、県内各造船所より事務・技術職あわせて29名の方が参加されました。

午前の座学では、長崎運輸支局船舶担当首席から、造船業が日本の社会において重要な役割を果たしているのか、船がどのような法律・制度に基づいて建造されているのかなどについて、最近のトピックスにも触れつつ解説を行いました。2時間ほどの講義時間でしたが、日々の業務の背景にある内容ということもあり、参加者の方々はみな真剣な様子で聞き入っていました。

午後からは長崎総合科学大学へと場所を移し、船体抵抗の計測等に使用する試験水槽の見学や、溶接・塗装のシミュレータの体験を行いました。特に、シミュレータの体験では、日頃行っている作業が室内で疑似体験できるということで、皆、大きな関心を寄せていました。

研修後に行ったアンケートの結果は概ね好評で、造船業の重要性の再確認と、今まで仕事をしてきた中であまり深く考えていなかった船の基準や制度を知ることが出来て勉強になったといった意見が寄せられ、日々の業務に対するモチベーションの向上に一定の成果があったものと思います。

次回開催への参加希望やその他要望・意見も多く寄せられ、長崎運輸支局としては、今回の研修を基に、今後も造船所の社員の方々のニーズを踏まえた研修を、関係機関と連携の上、実施していきたいと思っています。

研修の様子は次のURLよりご覧ください。

[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_320\\_4.pdf](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_320_4.pdf)

(長崎運輸支局)

---

## 2 お知らせ

◆「外資系企業とのビジネス提携交流会(観光分野)～インバウンド消費を九州へ！～」が開催されます

外資系企業のネットワークを活用して日本の観光地の魅力を発信するため、福岡で「日本で事業展開する観光分野の外資系企業」と「外国人旅行客誘致に取り組む日本企業」の交流会が開催されますので、ご案内します。

なお、この交流会は日本貿易振興機構(ジェトロ)が主催し、九州運輸局が後援を行っています。

- ・日 時：2015年12月1日（火）13：30～16：30（受付開始 13：00）
- ・場 所：ハイアットリージェンシー福岡 2階 リージェンシーボールルーム  
<http://www.hyattregencyfukuoka.co.jp/access/>
- ・参加費：無料
- ・対 象：外国人観光客の誘致に取り組む旅行業、宿泊業、小売業、サービス業の事業者、地方自治体など
- ・定 員：130名（先着）
- ・申込締切：2015年11月27日（金）正午まで（延長）
- ・詳細・申込：[http://www.jetro.go.jp/events/bizmatch\\_kankou](http://www.jetro.go.jp/events/bizmatch_kankou)
- ・お問合せ：ジェトロ誘致プロモーション課（担当：友尻、朝比奈、森）  
TEL：03-3582-5312 E-mail：JAB@jetro.go.jp

----- 3 九州運輸局ホームページアップ情報 -----

--- 報道発表 -----  
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ -----  
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 -----  
<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より ///  
いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。  
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

//

- 本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから  
[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/backnumber-top.htm](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm)
- 本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから  
[http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou\\_mail.html](http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html)
- 九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）  
mail：[qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp](mailto:qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp)  
Tel：092-472-2312 Fax：092-471-7192